

高潮

<前提条件>

- ・台風の規模：昭和34年9月に上陸した伊勢湾台風クラス（940hPa）
- ・台風の進路：市川市の被害が最も大きくなる進路
- ・潮位：東京湾千葉港の朔望平均満潮位を想定
- ・海岸保全施設：正常に機能

（国土交通省港湾局が平成21年4月に公表）

この地図は、昭和34年9月に上陸した伊勢湾台風クラス（940hPa）の巨大台風が襲来し、被害が最も大きくなる進路を通過した際に高潮が発生した場合の浸水範囲とその程度を示したものです。浸水の深さは地盤の高さを基準にしています。

水の深さ

- 水の深さが5.0m以上の区域
- 水の深さが3.0～5.0m未満の区域
- 水の深さが0.5～3.0m未満の区域
- 水の深さが0.5m未満の区域

行政界

- 避難場所
（災害から一時的に身を守る屋外の広い場所）
- 避難所
（自宅で生活できない人が一時的に避難生活をおくるための施設）
- 校庭貯留
（河川の氾濫を防ぐために、校庭等に降る雨を一時貯留する施設）
- 大型土のうステーション
（雨の状況に応じて随時開設します。開設場合は、メール情報配信サービス等でお知らせします。）
- 地域型小規模土のうステーション
（いつでも土のうを持ちだせます。50個の土のうが入っています。）
- 防潮施設
- 道路冠水注意箇所
（道路や鉄道の下を通るアンダーパス部など道路が周辺より低く、大雨の時に冠水する可能性がある場所。）
- 近隣自治体避難場所等
（近隣自治体が避難場所などとして予定している施設）

千葉県参考図

この図は、想定し得る最大規模の高潮が発生し、海岸施設や河川堤防が決壊するなど最悪のシナリオを任意に設定した場合に、浸水が想定される区域を示したものです（平成30年11月に千葉県が作成）

浸水深の目安

